

# 視覚障害者にアクセシブルな Website 構築

藤本貴之

林幸雄

Takayuki Fujimoto

Yukio Hayashi

北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科

School of Knowledge Science, Japan Advanced Institute of Science and Technology

## 1. 研究の概要

近年の著しい計算機性能の向上やネットワークインフラの整備に伴い、「利用し易い環境」の要素として、Web コンテンツによるアクセシビリティが注目されている。1999 年には W3C 勧告として "Web Content Accessibility Guidelines 1.0"[1] が出され、インターネットのアクセシビリティを維持するためには、Website を構築する側の些細な「気遣い」により、それを可能にすると理解することもできる。Kynn Bartlett (Idyll Mountain Internet) により『大半のウェブサイト、特にニュースサイトは、目の不自由な人が利用できるように作られていない デザイン作業としては簡単なのに、ただ実行に移さないのだ』[2] という指摘もなされている。近年の Website は FLASH、Java script 等の動画を多用し視覚的に表現力のあるホームページが多数存在しているが、果たしてそれで本当に必要な情報を伝達しきれているのだろうか？ という疑問はインターネットを情報源として作業をしたことのある者であれば、煌びやかだが使いづらい Website を前に、誰でもが一度は感じることであろう。とりわけ、視覚表現を必要としない視覚障害者にとっては、視覚表現に力点を置いた情報供給・表現方法は、不便以外の何者でもないのではなかろうか。本研究は以下の3点に着目して具体的な Website 構築を行った。

- (1) 視覚障害者にも利用しやすい Website
- (2) 具体的手順としての読み上げソフトの活用
- (3) 視覚障害者に捉われない Web アクセシビリティ

## 2. 研究の目的

本研究では、視覚障害者にも利用し易い Website 構築について、視覚障害者のアクセシビリティを維持する為に最も汎用性があり、普及していると思われる "Website の読み上げソフト" を対象に、それが効率的に弊害なく機能することができる Website の構築を、著者の所属研究科の Website において試みた。"読み上げソフト" が効率的に機能する為に求められる Website デザインとは、視覚障害者だけでなく、健常者のインターネット利用をもアクセシブルなものにする。本研究は視覚障害者にアクセシブルな Website の構築を目指すことで、誰にとっても利用し易い Website 構築の可能性と方法を模索することをも射程としている。

## 3. Web アクセシビリティ

本研究では "読み上げソフト" として、広く普及しており、また価格も安価な日本 IBM 社から販売されている "ホームページ・リーダー Windows 版" を採用した。日本 IBM では「バリアフリーの扉」[3] の中で、"読み上げソフト" を効率的に機能させるための html タグのリファレンスと作成方法を紹介し、また、作成した Website が、"ホームページ・リーダー" で不都合なく読み上げることができるタグ記述が出来ているかどうかをチェックする「i-Checker」[4] というソフトウェアを無償で公開している。

## 4. 具体的な Website の構築

現在、著者の所属する北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科の Website は macromedia 社の FLASH を多用した動的なサイトデザインを行っており、現状において、アクセシビリティは低く、殊に視覚障害者にとっては全く利用できないというのが実状である。そこで、本研究では、動的画像や FLASH 等を一切利用せず、しかし、現状のデザインを大きく崩すことなく、視覚障害者にも利用し易く、健常者へのデザイン性をも維持した Website を構築した。以下が知識科学研究科の Website と、著者が修正したりメイク版のアドレスなので、参照されたい。

知識科学研究科オリジナル Website :

<http://www.jaist.ac.jp/ks/index.html>

知識科学研究科リメイク Website :

<http://www.jaist.ac.jp/~t-fujimo/jaist/index.html>

無制限に且つ急速に向上する計算機環境において求められるインターネット・アクセシビリティとは、ハードの整備と向上によって達せられるのではなく、Website を構築する側のささやかな「気遣い」によってこそ成されるものであると言えるのではないだろうか。

## 4. 参考資料

[1] Web Content Accessibility Guidelines 1.0, W3C, <http://www.w3.org/TR/WAI-WEBCONTENT,1999/5/5>

[2] 視覚障害者にも使えるニュースサイトを、HOTWIRED, <http://www.hotwired.co.jp/news/news/culture/story/20010928204.html>

[3] バリアフリーの扉, 日本 IBM, <http://www-6.ibm.com/jp/accessibility>

[4] i-Checker, 日本 IBM, <http://www-6.ibm.com/jp/accessibility/webaccess/i-checker.html#navskip>